

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773300328		
法人名	社会福祉法人 慈福会		
事業所名	グループホームめぐみ苑		
所在地	大阪市西成区千本北2丁目12-2		
自己評価作成日	令和5年5月26日	評価結果市町村受理日	令和5年9月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和5年8月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

めぐみ苑の基本理念である「その人らしい日常生活」が遅れるように地域住民の皆様の協力を得ながら、入居者様が安心して生活が出来るように一人ひとりの思いや気持ちを尊重し寄り添い支援が出来る様に職員一同丸となって努めています。認知症になっても住み慣れた地域で生活し近所のスーパーに買い物に出掛けたり、ふれあい喫茶や施設の催し物に参加したり、来苑して下さる地域住民の皆様との交流を大切にしています。医療面では月2回の主治医の往診がありこまめな体調管理を行っています。めぐみ苑のスローガンにある「好きな事を好きな時に好きなだけ出来るように努めます」をモットーに入居者様の楽しい暮らしを職員一同心を込めて支援させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は同館に、居宅介護支援事業所・通所介護・在宅介護支援センターを展開しており、その中のグループホームめぐみ苑である。利用者の潜在能力を引き出すための7つの倫理綱領(生命の尊厳・人権の擁護・個性・主体性の尊重・社会参加の促進・生活環境の整備・豊かな地域生活へ・職員として)と、基本理念・スローガンを掲げて地域の協力を得ながらその人らしい日常生活が安心して送れるよう支援している。居室・リビングは広く天窓があり、室内は明るく陽射しが入り込み、トイレ・風呂の共有部分は整理整頓され清潔に保たれている。コロナ禍の中でも敷地内の桜の木の下で花見が行われ、枇杷の木には実が沢山つき収穫でき利用者から喜ばれた。職員間のチームワークは良好で管理者と一体となり情報共有及び連携が整い家庭的な施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念、スローガンを事務所の中に掲示し、日常業務につなげるよう努めている。	めぐみ苑のスローガン「利用者が好きなことを好きな時に好きな事だけ出来るよう努めます」と基本理念を事務所の中に掲げている。職員同士がお互いにケアの向上に向けて実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため地域との交流は止まっているが、取り組んでいくことが大切なので、今後は積極的に取り組んでいきたい。	コロナ禍で地域交流は中止が続いたが、近くの福祉会館での月1回のふれあい喫茶に6人の利用者が参加した。地域のお祭りで神輿や獅子舞が立ち寄ったりと少しずつ地域との繋がりが広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染症も落ち着いてきたので、これから取り組んでいきたいと考えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍であったため、会議資料を配布しての報告のみになっている。今年度からは対面形式も再開していく予定なので、意見交換をして、サービス向上につなげていきたい。	コロナ禍で書面会議が続く中で、地域包括職員2名と事業所職員による対面会議も開催しているが家族参加は見られない。運営状況・事故・ヒヤリハット・行事・研修・防災等の報告を主としており、意見交換の記載は無い。議事録は玄関入り口に開示して構成メンバーに送付している。	前回の目標達成計画にある点、構成メンバーの拡充、家族参加が難しい状況は理解するが、利用者参加への努力に期待する。加えて、家族へ議事録を送付し、意見や要望を収集して次回会議に反映すると共に、サービス向上に繋ぐことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や日頃の業務の中で、関係機関と協力関係を築けるよう努めている。	入居者に公的扶助受給者が多く、行政担当者やケースワーカーが来所しての暮らしの様子や状況の見守りがある。介護保険の更新やその他業務上での電話のやり取りで協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などを重ねて、禁止行為など具体的に理解し、よりよいケアを目指すことができるよう職員間で協力している。	身体拘束適正化委員会の指針を作成し、運営委員会の中で委員会で開催している。「ちょっと待って」など声が先に出てしまったときは、理由を説明して利用者に理解をしてもえるよう接している。転倒防止のために家族の同意を得て、1名がセンサーマットを使用している。	運営委員会終了後に、独立した形で身体拘束適正化委員会を開き、議事録を作成して職員全員に周知し、事業所一体となってより良いケアに努めてることに期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や資料の閲覧を通じ、虐待の理解を深めている。また、スタッフ同士で意見交換し、日常のケアの中でも意識するように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修があれば参加してもらい、学んだり、話し合いができるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解していただける様にわかりやすく説明するよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部用にご意見箱の設置をしているが、反応はない。ご意見を聞けるような取り組みを考えていく必要がある。	家族の面会時や電話で意見や要望を聞いている。毎月、連絡事項として利用者の医療面・生活面・お知らせなどの近況報告書を送り、行事等の写真を送って欲しいとの要望に応えている。施設の花壇にトマトや茄子の夏野菜を育てたいとの要望があり、毎朝、水やりや成長を楽しみながら見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や月1回の職員会議で意見交換をしている。 また、何かあれば管理者に随時報告している。	申し送り時や月1回開催の職員会議があり、日頃のケアの関わりの中でも意見や要望を聞き、職員同士で内容を共有して意見交換している。電気製品の買い替えの意見や情報を広げる道具としてユーチューブが見られる大きなテレビの購入、業務の効率化とした食洗機等の要望があり職員意見を実現したとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績の処遇への反映は働く上での向上心にもつながる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内などは誰でも見れる状態になっており、必要な研修は該当者に参加してもらい、その時は勤務扱いとしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者などがグループホーム委員会に参加するなどしている。コロナ禍もあり、交流することは難しい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	観察と傾聴を心がけ、ご本人の気持ちを汲み取ることができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や疑問に真摯に応えたり、入居されてからの様子をご家族に伝えたりすることで信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族にどういう支援が必要なのかをくみ取りながら、職員間でも情報共有し、段階的な支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができること、興味のあることを役割としていただけるよう引き出し、職員と一緒にその役目を果たすようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご家族に報告したり、可能であればご本人と直接やり取りしていただき、ご家族との関係が途切れないように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍もあり、面会を制限したり、外出中止になっている。	コロナ禍のために馴染みの人との交流や継続は難しい状況だが、家族との電話の取り次ぎや手紙のやり取りの手伝いなどの支援をしている。定期的な訪問理美容もあるが、囲碁のボランティアが月2回来られ、馴染みの人との関係継続に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話を楽しんだり、一緒に作業をすることで関わりをもっていたいが、男性の方は関わりを好まれない方も多いように感じる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当するケースなし		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で情報を共有したり、ご本人との関りや行動から意向を読み取るように努めている。	日常のケアの中で、本人の行動・声掛けや・仕草でどんなことがしたいのかを丁寧にくみ取り、職員間で情報を共有してその人らしい暮らしができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、関わっている方より情報収集したり、毎日のかかわりの中から把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定で身体の状況を把握し、日常生活の中でご本人の状況を把握し、職員間で情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ以外の職員もケアプランの作成に意見を出し合い、気づいたことやアイデアを介護計画に反映させている。	利用者と家族からの意見と、職員会議録と支援経過記録を参考に短期目標3ヶ月、長期目標6ヶ月の計画を作成している。状況や状態変化時はその都度状況にあった見直しを行い、介護計画を作成して家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアや実践については支援経過に記録し、それ以外に申し送りやヒヤリハット報告、職員会議などで共有するように心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じてご本人本位に考えているが、コロナ禍もあり十分にできているとは言いにくい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でできなくなっているが、地域の行事やふれあい喫茶などが再開したら参加したいと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の訪問診療だけでなく、必要な診療科への通院介助など行っている。	全員が協力医療機関の内科系と歯科の訪問診療を受けている。内1名の循環器系の定期受診と、他の専科受診には主治医の指示により職員が同行しており、この際は交通費と駐車場代は負担してもらっている。非常勤の看護師在籍と訪問看護師との連携で、日常的に、また急変時にも適切な対応があり、利用者・家族のみならず職員にも安心の要素となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば申し送りノートに記録を残したり、気づいたことを直接報告・相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力医療機関とは何かあれば連絡を取りあえる関係であり、入院時には職員が付き添って情報提供できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に緊急対応の意思確認を行い、かかりつけ医もご家族と面談をして確認している。	事業所として医療的対応を不可として、重度化、急変時対応についての事前指定書(15項目の医療的処置の可否)を作成して説明し同意を得ている。看取り体制は準備せず、相談に乗り、協力機関などへの入院となっている。 安全な入浴・離床・経口食事と服薬が不可となり、医療行為が必要となれば転居か契約解除の旨を入居時に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、急変時や事故に備え、AEDの使い方や緊急時対応などの講習もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入所者の方とともに避難訓練を行ったり、職員間では夜間想定避難訓練などのマニュアルの見直しをしている。	規定の訓練以外に、津波対応等を含め2ヶ月毎の自主訓練を、館内併設の事業所と合同で実施している。地域・近隣との協力関係については課題とする。BCP作成の途上であり、現行のマニュアル、備蓄品各種について再検討するとしている。	建物(3階建)が住宅地内に在り、併設通所事業所との関係性もあり、地域・近隣住民との協力体制の要は大きいと推察する。協力体制構築に向けての努力を望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声かけ・ケアを心がけている。時には、自分の行なった行為や言葉かけの振り返りを他の職員としている。	「利用者が好きな事を、好きな時に、好きなだけ出来るように」をスローガンとし、日々の接遇時の慣れからくる言動に注意している。お互いが申し送りノートなどを確認するなど、その人らしい暮らしの支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で思いや希望を引き出せるようにしている。いくつか選択肢を提示し、自己決定がしやすいように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活上の決まりごとは、納得してもらえる様に説明を丁寧に行っている。できるだけ、一人一人のペースを大事にできるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装に決まりごとはないので、好きな服装で過ごしている。職員が買い物を代行する時は、カタログで好みを聞き出したり、お持ちの物から好みを推測するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルやお盆の消毒、盛り付けなどを手伝ってもらっている。食べやすく刻んだり、ふりかけを活用するなど個別に対応している。	業者による厨房で調理したものを盛り付け、一部アレンジして提供している。厨房休業の正月には独自にお節料理を作り、桜花の下で弁当を楽しむ、外食、テイクアウトなどでの工夫がある。全介助要の人は無く、夫々にマイペースでの食事風景で、職員も同食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調管理のため、食事量や水分量を把握している。また、個々の食の好みやタイミングに合わせて提供するものや時間を工夫し、栄養と水分の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアできるよう声掛けし、訪問歯科の指示に従って個々に応じた支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックと支援経過記録で情報共有し、一人ずつの排泄パターンを把握している。夜間はポータブルトイレを活用するなど、ケアの仕方を考えている。	退院後のオムツ使用一名以外は、夫々の状態に合った排泄用品を使用しながらトイレでの排泄が可能としている。現状維持を目標に、誘導や排泄用品使用についてカンファレンスにて検討し、適切な介助に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	テレビ体操を1日3回したり、十分に水分摂取する、個別で整腸効果のあるものを飲むなど、できるだけ自然排泄を促せるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間は個別に設定しているが、個々の事情や体調に合わせて臨機応変に対応するよう心掛けている。	週二回を目標に、個々人の状態や希望に沿った入浴支援に努めている。家庭用浴槽の湯を入れ替え、入浴忌避はなく全員が湯船に浸かり、お風呂を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に過ごされているが、生活のリズムが崩れすぎないように洗濯・掃除などできることを手伝っていただき、適度な休憩と運動ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や訪問薬剤師の指示に従いながら、服薬管理は毎週薬剤師に訪問してもらっている。職員間でも複数で薬の確認を行い、申し送りノートを活用して情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	力量に応じて役割を果たしていただいているが、コロナ禍もあり活動に制限が多くなっている。苑内でできることを探しながら楽しめる様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、希望に添えるような外出はできていない。	「5類」移行後は、周辺散歩や近くに公園に出かけているが、猛暑の7月からは控え気味である。敷地内の花壇の水やりや草むしりなどは、個々人の希望、やりたいに沿って外に出る機会を作っている。家族との外出は13~15時と時間を制限しながら実行しているが1名のみである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設が全面的に管理しており、万が一のことも考えて個人での管理はしていない。希望があれば、個人ごとの出納帳はいつでも閲覧できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、封筒や便箋をご用意し、ご家族と手紙のやり取りをしている。また、ご家族と電話で話すことができるよう、職員が取り次ぐ形で支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂と廊下は、天窓から外光を取り込んで明るい空間になっており、手作りカレンダーや季節の装飾をすることで暦を感じることができるよう工夫している。	玄関に水槽2基と大きなぷーさんの縫いぐるみがあり、外光を取り組んだ居間兼食堂は、テーブルが大型テレビに向かって平行に設置(コロナの名残)され、テレビ近くにも数脚の椅子がある。季節に応じた折り紙などの飾りつけで落ち着いた雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの食堂以外に、テレビ前や玄関にソファを置いて、自由に過ごすことができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室前に表札があり、自分の部屋という意識を持っていただける様にしている。ご本人、ご家族の希望に応じて使い慣れたものを使ってもらっている。	既設のベッドと小箆筒、ハンガーラックがあり、小机、椅子、テレビ、好みの品々が程よく整えられている。9名中7名が独居から入居の男性の事情もあり、全体にすっきりした感じだが、清掃も行き届き夫々に居心地の良さが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内、共有スペースともに安全に移動できるように動線を確保し、トイレや洗面所にはそれぞれ表示することでご自身で行ける様にしている。		